

# 日産ゴーン会長逮捕

## 報酬過少申告容疑

## 50億円、東京地検捜査

日産自動車のカルロス・ゴーン会長（64）が、同社の有価証券報告書に自らの役員報酬を約50億円過少に記載した疑いがあるとして、東京地検特捜部は19日、金融商品取引法違反の疑いでゴーン容疑者と、同社代表取締役のグレッグ・ケリー容疑者（62）を逮捕した。特捜部は横浜市の日産本社を家宅搜索した。



カルロス・ゴーン会長（ゲッティ＝共同）

複数の重大な不正行為があり、解職を取締役会に提案すると明らかにした。内部通報を受けて数カ月間調査し、ケリー容疑者が深く関与していたことも判明したという。同容疑者の解職も取締役会に提案するとしている。

日産の有価証券報告書によると、ゴーン容疑者の報酬は2016年度までは3年連続で10億円を超えていたが、17年度は7億3500万円で、過去最高だった16年度の10億9800万円から3割以上減少していた。

ゴーン容疑者はブラジル出身。経営危機に陥った日産にルノーから派遣され、1999年に最高執行責任者（COO）となり、00年に社長に就任した。その後、三菱自動車との提携を主導し、16年12月に同社の会長に就いた。17年4月に日産の社長を退き、代表権のある会長となった。